

## ■2024年レビュー

作物	作物担当	2024年の結果
じゃがいも	黒田 福男	3/5→10平畝植え畝間80cm株間30cm 9/11きたあかり360kg、次週メイクイン200kg収穫、メイクインに10%程度腐敗が生じていた
枝豆	宮坂 公野	品種はさつぽろみどりが圃場にあっている、雑草対策が重要
とうもろこし	鈴木 文夫	一粒コーンを育苗後定植、みかん山下圃場西側にウイルス病が発生するも一人2~3本収穫できた。
かぼちゃ	鈴木 明彦	うどんこ病対策で酢を散布するも発病、130ヶ収穫できたが、立ち枯れ病で2~3玉目以降脱落し収量低下。来年はうどんこ病耐性種の早生種ブラッセを試したい
すいか	小島 邦彦	6/2定植~6/20除草・敷き藁、大雨が多くかぼちゃの座布団を転用したのが良かった 受粉作業の負荷が高い。小玉すいか34株x4=140玉目標に対し、134玉を収穫。
さつまいも	木村 弘美	排水対策を施し今年も良作。二輪耕運機による除草・土寄せ管理のため畝間は70→80cmが良い。
里芋	宮平 洋美	人手不足から作物担当の作業負荷が高かったが、他作物から応援を得て対応。良作で多量のえびす販売を実施できた。土垂れに一部品種の混合がみられる。
落花生	宇田佳世子	城址下手前圃場は圃場の排水が悪く苦勞。Qナッツ38kg、おおまさり24kgを収穫。おおまさりネオの採種栽培を行ったので来年はQナッツに加え、おおまさりネオを栽培する。
人参	西村 栄子	8月下旬の暑さから9月上旬播種に延期。雨不足から灌水が大変で、発芽率は60%に反どまったが、600本を収穫でき良作。温暖化に対応して春播きを検討するのもよい。
大根	及川 良一	畝立て時に深耕ができなかった。除草・施肥・土寄せ時に防虫ネットを外して作業したほうがよかった。結果的に一人大型1本を収穫し、残りをえびす販売(50本)、そば祭り、餅つき大会で消費。
にんにく・玉ねぎ	富永 龍夫	年初収穫は良好。今年もペットポット育苗で玉ねぎ苗が順調に生育し植付け済み。一部に苗が不足し購入苗を使用。
白ねぎ	稲葉 敏夫	昨年は定植後雨乾燥で活着せず不作。今年は石倉一本ねぎとホワイトスターの2種を栽培しいずれも豊作。
水稻	福田 憲次	うるち米と黒米を栽培。
そば	舛本海洋治	景観作物として1,000㎡栽培 140kgの玄そばを収穫 収穫に8:30~11:30までかかったが、来年は1,500㎡の圃場のため対応の工夫が必用。また、玄そばに石や土塊がまざることが問題で対策要検討。

### □栽培品種の削減について

春作の栽培品種が多く、作業が重複することから、

①虫害や排水対策で栽培の難しいとうもろこし

②ファームと重複するさつまいも

について、来年度の栽培品種から削減することでどうか

→無農薬野菜が欲しい。ファームは無農薬ではなく、

→過去からの継続性を重視すべき

→栽培の容易なビーツなどの作物を追加してはどうか